

津山文化センター開館50周年 座談会

～ 文化センターの思い出 ～

津山文化センターは昭和 41 年（1966）1 月 11 日に開館しました。平成 28 年 1 月 11 日、50 周年を迎えます。そこで、今年度は開館 50 周年記念事業を展開しています。

今回は、さまざまな機会に津山文化センターのステージに立ち、さらに客席にも何度も足を運んでいただいている皆さんにお集まりいただき、座談会を開きました。

—— まずは、自己紹介を兼ねて、皆さんの思い出、活動内容そして津山文化センターとの関わりを聞かせてください。

文化センターとの関わり

神田恵子 平成 26 年まで津山交響楽団のインスペクターをしていました。楽器はヴァイオリンです。津山交響楽団は、こちらの展示ホールでいつも練習をしています。これまで 6 回の定期演奏会を開きました。第九演奏会や津山国際総合音楽祭でもステージに立たせていただきました。



八木美佐子さん

八木美佐子 津山市文化連盟の八木です。津山文化センターが開館した昭和 41 年には私自身は津山にいなかったのですが、文化センター建築のために津山文化協会が力を入れて発起人となって市民運動を起こしたというような話を先輩方から何度も聞かされてきました。私が文化

協会、文化連盟に関わりを持って 15 年ほど経つのですが、文化協会・文化連盟の催しはだいたい文化センターを使わせていただいています。いろいろな催しの共催、協賛をさせていただいたり、そういった意味での関わりを持たせていただいています。

角野功一 みゅーじかる劇団きんちゃい座の角野です。世話人の立場でいろいろなイベントの段どり、文化センターとの交渉役をしています。自分が演劇を始めたのが 35 歳の時。きんちゃい座は 1997 年に旗揚げをしました。1998 年に第 1 回公演。それから 2 年おきに文化センターで公演をすることを目標にやっています。私は役者としての初めての舞台もこちらでやらせていただき、経験を積みました。

最近では、若い学生さんたちに演技指導をしたり、裏方として関わらせていただいています。私自身も勉強しながら舞台づくりを楽しんでいます。

小林 孝 今はリタイヤして何年も経つので好きなことをやっています。観客として楽しんでいます。昔は



◇ 座談会参加者 ◇

神田 恵子さん [元・津山交響楽団インスペクター]
八木美佐子さん [津山市文化連盟会長]
角野 功一さん [みゅーじかる劇団きんちゃい座]
小林 孝さん [元・津山市民劇場事務局]

聞き手

森元 弘之 [(公財)津山文化振興財団常務理事]

進行・収録

竹内 治雄 [同 事務局]

人形劇を通じて舞台にも立たせていただきました。あとは裏方として関わらせていただきました。

最初私は民間の会社に勤めていましたが、ある方のお誘いで津山市民劇場の会員になりました。市民劇場ではグループを作れということだったので、10 人ぐらいでグループを作り、活動を始めました。市民劇場は 150 回の公演をしていますが、すごくいろいろな芸能人や音楽家が来られて会の皆さんにはとても楽しんでいただいたと思います。やがて市民劇場の事務局をお手伝いすることになりました。ところが、しょっぱなが佐良直美の公演（1970 年暮～1971 年 2 月 2 日）。本人は飛行機で到着したのに大雪のため楽団が来れなくて、順延。初めて舞台の裏にいて、こんなイレギュラーでびっくりした思い出があります。

森元弘之 津山市民劇場をつくる時も津山文化協会が音頭を取ったと思います。あの頃は、「文化」を話す人が多かった。市民劇場は文化の拠点たる津山文化センター格上げの中心的存在でしたね。

小林 いい舞台公演ができて、観客がいなくてダメということでも組織作りに力を入れました。今となってはほとんどが故人ですがそうそうたる顔ぶれが関わって来られました。その頃は会員も 1000 人を超え、事務局は結構たいへんでした。会費も安く入りやすかったです



小林 孝さん